

⑥ 選手、部員、学校職員の入場について

- ④ 試合のため入場する登録選手は選手章を着用し、20名一緒に入場すること。
- ⑤ 自校の試合以外を観戦する登録選手は、選手章着用の上入場する。他人に貸与しないこと。
- ⑥ 自校の試合の登録選手以外の部員の入場は、一般入場口で大会役員と当該校顧問立ち合いの上、入場申請書を提出し一括で入場する。
- ⑦ 大会参加校の職員は、入場口で身分証明書を示して入場する。
- ⑦ その他
 - ① ナイター施設は原則として使用しないが、状況により使用することがある。
 - ② 出場チームは大会が開幕した時点から大会と関係のない試合をしてはならない。ただし、大会本部が認めた場合、その初戦を迎えるまでに限り、県内チームとの練習試合ができる。

2. 試合について

- ① ベンチサイドは、組み合わせ番号の若い番号を1塁側とする。
 - ② ベンチ入り人数は、責任教師、監督、記録員各1名、登録選手20名合計23名とする。
 - ③ 服装については、責任教師は平服を原則とするが、自校ユニフォームでもよい。監督、選手は、自校ユニフォームとする。記録員は自校制服、トレーニングウェア、背番号のない試合用ユニフォームのいずれかとする。特に女子記録員の服装や靴に注意のこと。監督とノッカーは自校のユニフォーム、スパイクを着用すること。ノッカーは自チームのノック時に限りグラウンドに出てよいこととする。
- ノッカーは、各校野球部顧問、連盟に申し出たコーチまたは選手（女子部員を含む）とする。

なお、女子部員がノックを行う場合は通常の部活でノックを行っていることと本人の希望、保護者の承諾を前提とする。

- ④ 試合前のシートノックは原則として7分間とするが、天候等で変更の場合もある。試合前ノックの際の補助生徒は5人まで認めるが、ノックを受けることはできない。自チームノック時のブルペン捕手は可。服装は自校ユニフォーム又はいわゆる練習用ユニフォームで、靴はスパイク又はアップシューズとする。ツートンカラー、Tシャツ、氏名の入ったユニフォーム、グラウンドコートの着用は不可。補助員はシートノックの時のみ参加できる。

なお、女子部員の補助員については以下の通りとする。

〈試合前の女子部員の活動について〉

- ① 試合前のシートノックのボール渡し（内野ノック、外野ノック）を可とする。
- ② 通常の部活動でノック時の補助を行なっている女子部員に限る。
- ③ ヘルメットを着用すること。
- ④ 服装は自校ユニフォーム、練習用ユニフォーム（白）、トレーニングウェア（体育着）のいずれかとする。
- ⑤ 大会前に本人の希望、保護者の承諾を得ること。
- ⑤ シートノック時の補助員、ベースコーチはヘルメットを着用すること。

- ⑥ トスバッティングをスタンドに向かって行なわないこと。
- ⑦ 対戦当事校関係者は、その試合中はスタンドにて観戦のこと。また、スタンドからのメモ、試合中のベンチ裏への出入り等絶対ない様にフェアプレイの精神を守ること。(厳 守)
- ⑧ 試合開始後は、責任教師、監督、記録員はベンチを離れないことを原則とする。また、試合に直接関わっていない選手も同様である。
- ⑨ 審判員への申し出は、主将か問題の当事者及び伝令に限る。(厳 守)
- ⑩ 試合中は、携帯電話やラジオ等の使用は厳禁。
- ⑪ 試合の進行をスピーディーにするよう行動すること。
 - ① 攻守交代は迅速に行なうこと。攻撃側のその回の第1打者とベースコーチ、次打者は、ミーティングには加わず速やかに所定の位置につくこと。
 - ② 投手は投手板に軸足を触れている状態で、捕手からのサインをうけること。捕手のブロックサインは禁止。
 - ③ 捕手は投手へ返球したり、野手に声をかけるため、1球毎にホームプレートの前へ出ないこと。
 - ④ 打者はみだりにバッタースボックスを出ないこと。
 - ⑤ 外野飛球によるアウトの際には、ボール回しを行なわないこと。
 - ⑥ 試合中、靴紐の結び直し等でみだりにタイムをとることのないよう、ベンチにいる間に点検しておくこと。
 - ⑦ 試合中、選手をベンチへ呼び戻さないこと。攻撃の場合も伝令を使うこと。(厳 守)
 - ⑧ 内野手（捕手を含む）が投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人だけとする。
- ⑫ 次打者は必ずネクストバッタースボックスに入り、飛球が来たら逃げられる姿勢で待機すること。またサークル内で投球時にタイミングをとる行為や素振りはしないこと。投手が次打者の場合も、必ず本人が待機すること。
- ⑬ 投球に対しては故意に当たりにいく行為はしないこと。
- ⑭ 打者走者はスリーフットレーン内（特に後半部分）を走ること。
- ⑮ 盗塁の場合、打者が走者の盗塁を助けるために捕手を妨害するような行為（ボックスから踏み出したり、遅らせてのスイング等）をしないこと。
- ⑯ 投球練習場でピッチング練習する場合には、守備及び試合進行の妨げにならないよう留意すること。
- ⑰ ビデオ撮影をする場合には、バックネット裏からとし、1・3塁側スタンドからは避けること。保護者会等に極力連絡しておくこと。
- ⑱ 打者や走者、ベースコーチ等が捕手のサインを見る行為、球種やコースを知らせる行為がない様、高校野球の精神に基づいてプレーすること。
- ⑲ 1人の投手が投球できる総数は1週間500球以内とする。
- ⑳ 投手が投球関連動作に入れば、両チームのベンチ・グラウンド上の選手他の発声は控えること。(プレイ上必要な場合は除く)

3. 用具について

- ① ユニフォーム、アンダーシャツ、ストッキング、足首保護ガード等の商標は取り除いておくこと。特にアンダーシャツとストッキングに注意のこと。また、グラウンドコートやシューズの規定（選手名他）に注意のこと。
- ② 金属バットは新基準のものに限る。（SGマーク、-Rマーク）
- ③ リング、鉄棒をベンチへ持ち込まないこと。
- ④ メガホンのベンチへの持込みは、2個以内とする。
- ⑤ テーピング、足首保護ガード、サングラス使用の場合はメンバー交換の際に本部へ申し出る。テーピングの色はベージュとする。チタンテープ、スパイラルテープ等の使用は禁止。
なお、レッグガードやエルボーガードの使用規定を読んでおくこと。
- ⑥ ラダー等試合に関係のない物をベンチに持ち込まないこと。
- ⑦ サングラスの使用については以下の通りとする。
 - ① 本内規はグラウンド上（ベンチ内を含む）にいるすべての選手、記録員、指導者、審判委員などに適用する。
 - ② サングラスは紫外線から目を保護する目的で使用するができる。
 - ③ サングラスは試合前の用具点検の対象とする。
 - ④ 危険防止のため、サングラスを帽子の底（ひさし）の上やユニフォームの胸元に掛けてプレイすることなどを禁止する。
 - ⑤ 試合前後の整列時や校歌斉唱などの脱帽を要するときには、サングラスの着用は控えることとする。ただし、目に疾病などがある場合はその限りではない。
- ⑧ スパイクのホワイト、ブラック混在は可とする。

4. マナーについて

- ① ベースコーチはボックスを離れないこと。また、セーフの発声やジェスチャ等審判類似行為をしないこと。
- ② 個人を罵倒するような汚い野次を慎むこと。
- ③ ファンにせがまれても、個人的にサインをすることは禁止する。
- ④ ホームランを打った打者を迎えるときでも、試合を遅滞させない、ベンチから出ない等試合上の諸規則を遵守すること。
- ⑤ ユニフォームについてベルトが見えずにだぶついた着方をしないように注意する。
- ⑥ 試合上の挨拶は、原則として開始時と終了時の審判の発声によって行うものだけでよい。例えば、打者がバッタースボックスに入る毎に、ヘルメットを脱いで審判員に挨拶をしたり、終了時の挨拶の後、相手校ベンチへ出向いて挨拶をする必要はない。またホームプレート上での礼はテンポ良く1回とすること。

5. 応援について

28・29ページ参照

6. 開会式について

- ① 7月5日上毛新聞敷島球場にて実施する。
- ② 受付開始は6時30分、7時00分松林に整列完了、直ちに行進要領の説明（40分まで）、8時05分行進開始を予め参加者全員に周知しておくこと。
- ③ 各チームの責任教師は、上毛新聞敷島球場に到着後直ちに役員・選手入口にて、その旨を報告する。その際「選手変更届一覧表」の受取りを忘れないこと。
- ④ 受付後、選手は直ちに集合場所（松林内の広場）に組み合わせ番号順に整列すること。
- ⑤ 選手は、選手章を胸左側マーク下に着用のこと。
- ⑥ プラカード保持者は、本年度は前橋商業高等学校の生徒が担当する。
- ⑦ 加盟校の責任教師、監督は、三塁側ベンチ前に整列する。
- ⑧ 入場行進はアップシューズで行う。アップシューズの色は白または黒とし、チームで統一すること。